

## 上下顎骨切り術におけるオンダンセトロン術後悪心・嘔吐予防効果

### 1. 研究の対象

2020年4月～2023年3月に当院においてプロポフォルによる全静脈麻酔下での上下顎骨切り術を受けた16歳以上65歳未満の方を対象とします。なお、意識下挿管した方は除外します。

### 2. 研究目的・方法

#### (1) 目的

一般的な全身麻酔手術後の合併症に術後悪心・嘔吐があります。歯科領域では、顎矯正手術患者さんでの発生率は高く、約40%と報告されています。術後悪心・嘔吐は患者さんの苦痛だけでなく、術後入院期間の延長や医療費の増加といった悪影響も伴うため、対策が求められていました。このような背景において、2021年8月30日に制吐剤のオンダンセトロンが、「術後の消化器症状（悪心・嘔吐）」に対して保険適用となりました。当院でもオンダンセトロン採用以降は、顎矯正手術、とくに上下顎骨切り術では積極的に術後悪心・嘔吐の予防目的でオンダンセトロンを投与しています。しかし、当院で実際のどの程度オンダンセトロンの効果があるかはわかっていません。本研究の目的は、当院で上下顎骨切り術を受けた患者さんにおけるオンダンセトロン術後悪心・嘔吐予防効果を調べることです。

#### (2) 方法

過去の電子診療録および麻酔記録から、研究に用いる情報を記録・分析し、オンダンセトロン術後悪心・嘔吐予防効果を調べます。なお、研究結果に応じて、情報を2次利用させていただく可能性があります。

#### (3) 研究期間

研究機関の長の許可日 ～ 2025年3月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：手術時の年齢、身長、体重、BMI、ASA PS（患者さんのリスク分類）、性別、既往歴、手術内容、手術時間、麻酔時間、フェンタニル投与量、レミフェンタニル投与量、オンダンセトロン投与量、出血量、輸液量、輸血量、術中ステロイド投与量、喫煙状態、術後悪心嘔吐の既往、術後24時間以内の悪心・嘔吐、制吐剤の使用および頭痛。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて保護者等の患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪府吹田市山田丘 1-8 大阪大学歯学部附属病院歯科麻酔科 06-6879-2972

研究責任者：大阪大学大学院歯学研究科歯科麻酔学講座・高津英美